

令和4年度 学校評価書 (計画段階・実施段階)

福岡県立特別支援学校「福岡高等学園」

自己評価		
学校運営計画(4月)		評価(総合)
学校運営方針	職業的自立及び社会参加を実現する意志と実践力を有し、誇りと思いやりをもって他者と接する人間の育成をめざす。	
昨年度の成果と課題	年度重点目標	具体的目標
<p>成果:本校のスクールミッションの達成に向けて、日々の教育活動に取り組んできた。具体的には、学年・分掌において、本校のグランドデザインの4つの重点目標の具現化を図るため、実習等の体験学習を実践し、進路実現につなげることができた。</p> <p>課題:今年度もコロナ禍において体験的な活動が制限されることが予想されるため、効果的な実習等の機会を確保し提供するとともに、ニーズに応じた進路実現に向けて、職業科の指導体制や目標を明確にしていく。そのために、未来ビジョン委員会を機能させ、学年・分掌、事務室との共通認識のもとでの連携を図る。さらに、本校の特色ある教育活動等を中学校、地域等へ随時発信して、本校の教育活動への理解を得ることで、志願者数の安定確保を図る。</p>	A ニーズに応じた進路実現	<p>a 生徒、保護者のニーズに合った就労を実現するために、学年・進路指導部(就職支援コーディネーターを含む)・特別支援教育部の連携を密にして効果的な実習の機会を確保</p> <p>b 職業科の指導体制や目標を明確にするとともに、相互の一貫性を深める。</p> <p>c 行事や時制の見直しを行い、職員間で生徒の実態を共有する時間を確保する。</p> <p>d 感染防止に取り組みながら就業体験、職場実習の効果的な推進を図る。</p>
	B 心と体の教育の充実	<p>a よりよい人間関係が築けるように校内連携の充実を図り、教育活動全体をとらして社会的スキルやコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>b 落ち着いた学校生活を送るために、保護者や外部専門家、医療、福祉機関、中学校等との情報共有を図るとともに、連携した切れ目のない取組を推進する。</p> <p>c 職業的に自立し、健やかな社会生活を営むために、情報モラル教育や健康・安全、食性に関する教育を行う。</p> <p>d 1人1台タブレット端末の導入に伴い、ICTを活用した学習指導等の充実を図る。</p>
	C 寄宿舎教育の充実	<p>a 卒業後を見据え、生活管理能力を定着させるために学校、寄宿舎、家庭及び関係機関が密に連携し、社会生活に必要なスキルの育成を図る。</p> <p>b 安心・安全で充実した生活ができるように、感染防止を踏まえた舎内の活動や行事の活性化を推進する。</p> <p>c 寄宿舎生活を通して身につく力を明らかにし、集団生活ならではの楽しみを創出し、ホームページ等を活用して、寄宿舎生活の魅力の発信を行う。</p> <p>d 生徒の多様化に伴い、職員研修の充実を図るとともに、個別の対応が必要な生徒に対し、柔軟かつ組織的に検討を行い対応する。</p>
	D 組織の活性化と専門性の向上	<p>a 未来ビジョン委員会と学年・分掌間、事務室との連携の充実を図り、職業専門コースや寄宿舎等に係る学校課題の見直しを進める。</p> <p>b 本校の特色や魅力を周知させるために、ホームページの充実や外部相談会、研修会への参加など広報活動の強化に努める。</p> <p>c 若年者、ミドルリーダーの育成のためにOJTの充実を図る。</p> <p>d 職員の専門性向上のために学習・生活指導に関して外部講師を招聘した職員研修を実施する。</p>

B

A

評価項目	具体的目標	具体的方策	評価(3月)		次年度の主な課題
教務部	職業的自立及び社会参加を実現するための教育課程の整理・見直しに努める。(A-bc)	教科及び職業教育の再編を視野に入れ、関係する分掌と連携を強化し、進路先のニーズを具体的に把握する。また、社会情勢等を踏まえ各方面からの最新の情報収集と本校生徒の実態を踏まえた教育課程全体の整理・見直しに努める。さらに、ICT機器の利活用を促し教科指導の効果をより一層高めていく。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 職業教育の基本的考え方や職業専門コースの再編に向けた作業種を示すことができた。次年度以降は、具体的な作業内容や施設整備の検討を行っていく。 基本時制や学年の現状、生徒の実態に応じて各教科の授業時数の見直しを行った。また各学年の生徒の実態に応じた指導体制を組むことができた。引き続き対応していく。 月1回程度の午前授業の実施はできたが、学年を超えた生徒情報の共有化までには至っていないため、共有する場をつくる。 中学生進路相談事業(5つの学区)への参加、各教育事務所での広報はできた。次年度以降は中学校等へ直接出向き、広報活動や進路相談会等を実施する。 入学者選考については、公正かつ適切な選考をするため、各検査内容や項目の見直しを再度検討する。また、入学者選考の再編に伴い、今年度の反省を踏まえた実施方法や日程等の協議を県教委と行っていく。
	生徒の実態に応じた指導体制の見直しを検討する。(A-c)	学年や教科における生徒の実態に応じた複数人の指導体制の確立を行う。また、生徒の実態等を職員間で共有できる時間を月1回程度確保する。	B		
	本校の特色や魅力を積極的に発信し、入学者選考志願者の確保に努める。(D-c)	中学生進路相談事業への参加、各教育事務所で開催される特別支援教育関連の研修会での広報、本校主催で中学校等に向けた進路相談会等を実施し、中学生・保護者が主体的に適切な進路選択ができる広報活動の強化に努める。	B		
	入学者選考の再編に伴い、公正かつ適切な選考の確保を資する事務処理に努める。	入学者選考検査項目、検査内容、選考基準の見直しを行う。また、学力検査問題作成事務の共同実施に伴い、両高等学園の連携を強化する。	B		
第1学年	生活管理能力を育成する。(B-c、C-a)	基本的な生活習慣を身に付けるために家庭や寄宿舎と連携して個別の支援・指導を行う。	B	B	<ul style="list-style-type: none"> 今年度同様に基本的な生活習慣を身に付けるために家庭や寄宿舎と連携した個別の支援・指導を継続する。 相談週間等を利用して一人ひとりとゆっくり話せる時間をつくり、悩みやトラブルの早期発見に努める。また、SCや医療機関と協力した支援とするために保護者へ説明し、協力をお願いする。 学校行事やホームルーム活動、各教科の授業においても称賛する場面を逃さないように取り組む。 担任、副担任だけでなく学年はもとより学校全体での活動とするための関係部署と協力した進路指導を行う。
	対人関係力、規範意識を育成する。(B-a)	他者と協調し、自らの役割を責任をもって果たそうとする態度を養うために学校行事や学年、学級活動等とおして様々な経験を積ませる。社会人としてのマナーを身に付け、集団の一員という自覚をもたせるために挨拶・返事の指導を徹底する。	B		
	自尊感情を育む。(B-b)	自尊感情を育むために学級活動において称賛する場面を増やす。	B		
	将来の職業生活について意識を高める。(A-a)	将来の職業生活の意識を高めるために、生徒自身が卒業後の姿をイメージできるような就業体験を計画・実施する。	A		

学校関係者評価

評価(総合)	自己評価は
A	A : 適切である
	B : 概ね適切である
	C : やや適切である
	D : 不適切である
項目ごとの評価	学校関係者評価委員会からの意見
A	<ul style="list-style-type: none"> 入学志願者を増加させるためには、外部への広報活動も大切であるが、現在、在籍している生徒に対して、どのように手厚い支援を行っているのかという部分も重要である。学校の売りを明確にして効果的に中学校訪問を実施することが大切である。
A	<ul style="list-style-type: none"> 学年単位の活動も大切であるが、職業専門コース等において、縦割り活動する場面もつくる等工夫をしてもいいのではと考える。 生徒の可能性を広げるため、多くの経験の機会がある事を期待する。

第2学年	規範意識、対人関係力、自尊感情を育み、積極的な行動を促す。(B-a)	生徒が見通しをもって積極的に活動できるように、生徒の学習の特性・課題等の把握、授業規律の確立と物理的・人的な環境作り、日々の生活を重視した指導に努める。他者と協調し、役割を果たす経験を積ませる。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・見通しをもって活動できるように、月行事等のスケジュール帳記入および活用を促す取り組みを行った。積極的な活動につながったため、継続して取り組んで行く。 ・安心して落ち着いて過ごさせたいという教職員の意思統一のもと、日々の生活を重視した指導ができていたため、継続して指導に当たる。 ・意見を出し合いながら決めていく過程を大切に活動を行った。他者との協調は学年単位でよい経験ができた。自分たちで決められること進められること、確認すべきこと等の判断過程を経験できるような活動を仕組む必要がある。 ・家庭と連絡が取れない。本人の状況がわからない等の現状を打開するための方策が必要である。 ・次年度に向けてタイムリーな進路学習の機会がもてた。しかし、特定の職業にこだわりが強く、広く探してまずは体験ということが難しい生徒への対応が必要である。 ・担当者が責任をもって企画や準備を行い、副担任や学年所属の方々の協力体制がとれたため、次年度も業務を分散していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年単位の活動も大切であるが、職業専門コース等において、縦割りでの活動する場面もつくる等工夫をしてもいいのではと考える。 ・生徒の可能性を広げるため、多くの経験の機会がある事を期待する。
	生活管理能力を育成する。(B-c)(C-a)	自らの力で行えているという自覚や自立心を育むために、家庭や寄宿舎と連携する。また、安心・安全で充実した生活のために必要な生活管理スキルの育成を図る。	B					
	職業教育の充実を図る。(A-bd)	自らの進路についての積極的な行動を引き出すために、就業体験等の進路行事やホームルーム活動、各教科の指導を通して、ニーズを把握し、将来の就労や生活についての意識を高める働き掛けを行う。	B					
	教育活動全体において、協働の視点を持ち、組織的な運営を行う。(B-a)	事前準備を行い早めに職員に情報提供をする。また、タイムリーな情報を共有できるように報告・連絡・相談の徹底を図り、各分掌と連携して人的対応ができるようにする。	A					
第3学年	生活管理能力を育成し、定着させる。(C-a)	基本的な生活習慣を定着させるために、家庭や寄宿舎と連携して個別の支援・指導を行う。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・体育祭や文化祭、修学旅行等の行事を実施することができた。その中で、他者と協調し、自分の役割を自覚して活動することができた。特に体育祭では、中心的役割を果たし、2年生を引っ張っていた。 ・保護者や外部専門機関、医療等と連携することはできたが、友人関係においては距離が近く、体に接触することもあった。またマスクを外している場面も見られた。新型コロナウイルス感染予防対策は引き続き実施していく必要がある。 ・職場実習やホームルーム活動等を実施することによって、将来の職業生活の意識を高めることができた。総合的な探究の時間に関しては、進路指導部と連携して学習内容を計画することが今後も課題となる。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・学年単位の活動も大切であるが、職業専門コース等において、縦割りでの活動する場面もつくる等工夫をしてもいいのではと考える。 ・コロナ禍における様々な行事の開催には多くの配慮や準備を要されたと思うが、文化祭に参加した際、生徒の生き生きとした姿が印象的であった。今後、外部関係者の参加も踏まえて次年度の開催につなげてほしい。
	社会的スキルやコミュニケーション能力の向上を図り、対人関係力、規範意識を育成する。(B-ab)	他者と協調し自らの役割を責任をもって果たそうとする態度を養うために、学校行事や学年、ホームルーム活動等とおして、様々な経験を積ませる。社会人としてのマナーを身に付け、集団の一員という自覚をもたせるために挨拶・返事の指導を徹底する。	B					
	落ち着いた学校生活を送らせ、自尊感情をもたせる。(B-b)	保護者や外部専門家、医療、福祉機関と連携した支援を行い、落ち着いた学校生活を送らせる。また、自尊感情を育むために学級活動において称賛する場面を増やす。	A					
	将来の職業生活について意識を高める。(A-a)	将来の職業生活の意識を高めるために、生徒自身が卒業後の姿をイメージできるような職場実習等の進路活動やホームルーム活動、道徳、総合的な探究の時間を計画・実施する。	B					
生徒指導部	いじめのない学校づくりを行う。(B-ab)	生徒の日頃の行動を観察して状況把握に努め、必要な情報については全職員で情報を共有し生徒指導に活かす。また、学年や特別支援教育部と連携して、生徒の精神状況の把握や特性の理解に努める。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・不登校生徒の対応について特別支援教育部と連携することができたが、コンサルテーション等、他業務と重なり参加できないことが多かったため、日程を調整していく。 ・相談週間やいじめアンケートは定期的に行えた。4月中旬に相談週間を行ったことにより、生徒の実態を早期に把握することができたため、引き続き行っていく。 ・いじめアンケートについては、気になった生徒は担任が聞き取りを行い丁寧な対応ができた。しかし、いじめアンケートでは、いじめの早期発見につながらないことがあったため、対応を考えていく。 ・学年、寄宿舎との情報共有については、担任や部屋担当、学年主任と定期的にできた。問題行動が気になる生徒についてもケース会議を行い学校全体としての指導の方向性を決めることができた。しかし、解決に至らないこともあったため、継続的にケース会議を実施していく。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の人権意識を高める研修を実施しているのは、重要であると思う。生徒同士、生徒と教職員はもちろん、大人同士の関係も大切なため、人権意識の共有は大切にしていきたい。
		学年、寄宿舎及び保護者との連携の強化を図る。(B-a)	学年、寄宿舎の指導方針の共通認識・相互理解を深めるとともに、相互の環境で起こった問題行動を共有し、生徒指導に当たる。					
	学年、寄宿舎及び保護者との連携の強化を図る。(B-a)	学級担任・寄宿舎部屋担任との密な情報交換ができるように関係者・分掌に働きかける。内容に応じてはケース会議等を行い、学年全体または全教職員への情報の説明(提示)を行う。	A					
		生徒の希望職種、実態を踏まえた職場実習、就業体験の受け入れ先の確保に努める。(A-a)	3年生の職場実習を推進するとともに、1・2年生の就業体験の形態や回数の在り方について検討する。					
進路指導部	コロナ禍における社会情勢の変化に対応し、生徒の利益になる進路活動を、臨機応変に企画・実行していく。(A-d)	事業所のお話を聞く会、生徒向け求職登録説明会、1年生対象の職場見学を感染状況を見極めながら、適切に計画する。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・就業体験については、希望する生徒はほぼ実施することができたため、次年度以降も生徒・保護者の状況、ならびに新型コロナウイルスの感染状況を考慮し、柔軟に対応できるようにする。 ・今年度、職場見学、事業所の方のお話を聞く会(2回)、介護の仕事についての講演を行うことができ一定の成果を上げることができた。次年度も継続して、講演、見学会を実施する。 ・就労継続支援事業所の情報収集については、進路指導部職員の同行まではできず、学校側から積極的な情報収集ができなかった。次年度は、情報収集に関する分掌内の位置付けを明確化することも検討課題である。 ・実習評価表の分析が十分に行われたとは言えず、効果的な指導方法については検討する余地がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでは少なかったと思われるが、福祉サービスとの連携が必要に応じて増えてくることで、生徒の進路にも幅が出てくるのではないかと考える。
	福祉サービスのA型事業所、B型事業所、就労移行に対するニーズの高まりに対応する。(A-a)	A型事業所等の見学に、進路指導部職員が同行し、A型事業所等の情報を収集・管理を行う。	D					
	企業、施設での実習を通して生徒の実態に応じた職業教育の在り方について検討する。(A-b)	実習で得た生徒の実態に関する情報を分析し、効果的な指導法を検討する。	D					
	社会生活における必要なスキルの育成を図る。(C-a)	職員同士の確実な情報共有及び、学校、家庭への情報発信と連携の強化を行う。	B					
寮務部	安心・安全で充実した生活ができる寄宿舎の運営及び体制づくりを行う。(C-b)	感染防止を踏まえた舎内の活動や行事の活性化、舎内施設・設備のより良い活用の検討を行う。	A	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・投薬及び食物アレルギー生徒への対応について、ミスが続いた。各ブロックでの確認、投薬前後の担当職員による確認を確実に行うとともに、手順や様式など統一したものをを用いて確認すること、有事の際には速やかに報告を行うこと等を徹底する。 ・余暇時間の充実やルールの見直しを行い、生徒の自主性を引き出すきっかけを作ることができた。次年度、時制変更により在舎時間が長くなるため、余暇時間の更なる充実や生徒の自主性を高める取組として、ルールの見直しや新たな舎行事の検討を行う。 ・生徒が自らの生活規律や健康管理について考える支援を充実させることができなかった。生徒にとって分かりやすい資料の作成や正しい知識を身に付ける機会の提供に取り組む必要がある。そのためにも引き続き職員研修の充実を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギー対応に関しては、最優先課題である。寮務部との連携を密にして再発防止に努めてほしい。
	寄宿舎の魅力の再発見及び創出を行い発信する。(C-c)	寄宿舎生活を通して身に付く力を明らかにし、集団ならではの楽しみを創出し、ホームページ等を通じて発信できるように寄宿舎生活を充実させる。	B					
	個別の対応を要する生徒や家庭に対する、柔軟かつ組織的な対応の体制づくりを行う。(C-d)	個の特性や状況を正しく把握し指導に当たることができるよう、職員研修の充実を図る。	A					

保健部	健康管理意識を高めさせる。(B-c)	寄宿舎と連携し生徒の健康状態を把握し、体調不良の生徒に適切に対応する。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒個々の健康状態を把握し、保健室、寄宿舎、学級が連携して体調不良等の対応を行うことができたが、体育祭などの大きな行事の際、対応する職員によって適切な処置が十分に取れていないケースがあったため、情報共有を随時行う必要がある。 ・学校での食事提供に関しては、栄養のバランスを踏まえたものになっているが、家庭生活の中で望ましい食習慣を身に付けさせることが課題として挙げられる。食事と適度な運動の重要性について、保健体育科、家庭科等の教科と連携して、家庭生活での過ごし方についての改善を行う必要がある。 ・アレルギー対応についての確認マニュアルは徹底されているものの意図しないところで人的ミスが複数回起こっている。マニュアルの見直しを行い、今後アレルギー対応のミスが起こらないように改善する必要がある。 ・大掃除で他学年と協力しながら清掃することや職業専門と連携した清掃活動を通して普段生活している場所の環境美化の意識の向上を図ることができた。次年度も継続していきたい。 ・性に関する指導では、外部講師を招聘し、より専門的な知識、技能、意識の向上を図ることができた。次年度は各教科と連携し、包括的セクシャリティ教育の推進を図る。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・アレルギーに関する対応の不十分さ、ミスの連鎖等は、人の健康、命にも関わる部分であるため、この点は極めて重要といえる。予防策は考えていると思うが再発防止をお願いしたい。 	
		保健委員会を機能させ、手洗いや教室の換気等の呼びかけを行い、生徒の健康管理に関する意識を高めさせるとともに、手洗い・うがい、水分の補給等の指導を定期的に行う。	B						
		新型コロナウイルス等の感染症の拡大防止のために、具体的な予防方法を指導し感染防止の大切さを意識させる。また、罹患生徒が出た場合には、感染が拡大しないように寄宿舎と情報を共有しながら迅速に対応する。	B						
	望ましい食習慣を定着させる。(B-c)	職員研修において、食物アレルギーや減量食等、食事に配慮が必要な生徒の情報共有を図り共通認識のもと対応する。	C						B
		給食マナー週間を活用し食事時のマナー指導を行う。さらに黙食を心掛けることで新型コロナウイルス感染症の拡大防止につながることを意識させる。	B						
性に関する指導を充実させる。(B-c)	関係機関と連携し、生徒の発達段階に応じた指導内容の検討等を十分に行う。	A	A						
環境美化に対する意識を高めさせる。(B-c)	清掃活動を通じて、環境整備を自ら行う態度の育成を図る。また、環境を整えることで作業効率が上がることを認識させる。	B	B						
研修部	生徒が学ぶことと自己の将来とのつながりを見通せる学習指導についての研修を推進するとともに、生徒の「資質・能力」の育成を目指した各教科等における系統的な指導の充実を図るための研究を行う。(D-d)	新学習指導要領において整理された各教科の目標及び内容について理解を深めるとともに、各教科内で系統的な指導の充実に向けた協議を行う。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育研究については、今年度から新たに研究主題を設定し、研究を進めるにあたって、外部講師を招聘した校内研修を実施することができた。教科ごとに協議を行い、年間指導計画と学習指導要領を照らし合わせて、現状が系統的な指導内容になっているかを明らかにすることができた。ただ、教科によっては現状把握にとどまり、教科間での協議をすることができなかった。次年度は、系統的かつ教科横断的な指導の在り方についてより深めることができるよう、協議時間の確保を含めて、体制を整える必要がある。 ・若年教員研修や教育実習、介護等体験については関係の職員と連携を図り、円滑に進めることができた。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・系統的に学習を仕組むことは非常に大切なため期待している。 	
		特別支援教育、特に知的障がい・発達障がいに関する専門性を高めるため、各分掌と連携を図り、効果的な研修を計画実施する。校外における研修会については、掲示板等を活用し周知する。	B						
	若年教員研修(1年目、2年目、3年目)において、教科主任等と連携を図り、有益な研究授業ができるよう調整する。	B							
高い専門性を有する後進の指導者の育成を目的とした研修、および実習を実施する。(D-cd)	大学との連絡調整や校内での指導体制作り等の在り方を検討し、教育実習や介護等体験を円滑に実施する。	A							
特別支援教育部	職員の専門性の向上を図る。(D-d)	校内の関係分掌、外部の専門家や機関との連携を密にとり、障がいの理解と対応、福祉サービス等についての研修を計画し実施する。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・SC活用研修を教職員向け、寄宿舎職員向けの計2回実施した。外部専門家活用事業については、教職員向け研修、アセスメントとビジョントレーニングを行い、日頃の支援に活かせる内容だった。次年度は新入生のニーズを見て内容を検討していく。また、本年度できなかった福祉サービスについての職員向けの研修を計画する。 ・中高連絡会については、次年度も夏季休業中に行う。協議内容や運営の仕方について、本年度のアンケートに基づき改善する。 ・個別の支援計画は、次年度は5月に作成できるよう職員に周知する。作成・活用がしやすいように仕組みを整備する。 ・校内支援については、担任、学年から必要に応じて相談を受け、ケース会議を実施し情報を共有した。また、SSW活用も1件あった。支援に関しては、必ずしも有効な手立てにつながらなかった例もあるが、次年度もケース会議や関係機関との連携を行い、チーム感をもってより良い支援の方法を探るようにする。 ・中学生の保護者の教育相談、中学校への巡回相談を行った。センター的機能の面からも、本校への理解を広める意味でも有効であったため、次年度も案内を送り、相談に応じるようにする。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒指導部と連携して、引き続き教職員の人権意識を高めてほしい。 	
		生徒の情報やニーズを確実に把握し、個に応じた適切な支援を行える体制を作る。(B-b)	中高連絡会において支援の在り方、生徒の実態や地域・家庭での状況などの詳細な情報を得て本校での支援に活かす。						A
	一貫したきめ細かな支援を行えるよう、必要に応じて校内、校外の関係者と連携をとる。(B-b)	「個別の教育支援計画」の新様式を導入するに当たって、本校独自の項目を使いやすいものに設定し、活用方法を職員に周知する。	B						
		生活や学習での困り感が強い生徒については、早めに担当職員から係へ相談していただいたり、分掌会議で協議したりすることによって、ケース会議や関係機関との連携へとつなげ、適切な支援方法を探っていく。	B	B					
		学期に1度、支援会議を行うことで学校全体での支援体制を検討する。	B						
センター的機能の充実を図る。(D-b)	福岡教育事務所管内の高等学校、中学校に教育相談の案内を送る。	B	B						
企画庶務部	PTA役員と連携し、PTA活動を推進する。(B-b)	定期的、計画的にPTA理事会を開催し、取り組みの確認や意見交流を行う。	B	B	B	<ul style="list-style-type: none"> ・文化祭や体育祭について、過去3年間、PTAの取り組みをしておらず、経験している役員理事がいなかったため、次年度実施するに当たって十分な打ち合わせ等が必要である。 ・PTA研修会は2回、外部講師を招聘して実施できた。本年度は、障がい者年金とグループホームについて取り扱った。次年度どのような内容にするか検討していく必要がある。 ・学校案内パンフレットについては、昨年度大きく変更を行ったところであり、本年度は、更に修正を行った。 ・ホームページについては、月に4回程度の頻度で更新を行った。来年度も、ある程度の頻度で学校の様子などを伝えるために、更新していく必要がある。 ・必要な放送機器を購入したり、ソフトウェア上でチャイムの管理を行うことができた。次年度も、適時チャイムの管理をしていく必要がある。 	A	<ul style="list-style-type: none"> ・福岡高等学園のアピールポイントを明確にして、効果的に広報活動を進めてもらいたい。 	
		PTA役員を中心に文化祭等の行事において、PTAの取り組みを推進する。	B						
		加盟している様々なPTA団体の総会、研修会などへ保護者が積極的に参加できるようPTA役員と連携する。	B						
	学校ホームページや広報誌などを通して、本校の広報活動を行う。(D-b)	学校要覧や学校パンフレットの発行を行い広報活動に活用することで本校の特色ある教育活動をアピールする。	A	A					
		学校ホームページの情報を最新にし、積極的な情報発信を行う。	A						
		日ごろの教育活動や学校行事等の様子を定期的に本校ホームページにアップして本校の教育活動が外部に見えるようにする。	A						
	視聴覚機器等の管理と活用の推進を促す。	プロジェクター等の情報機器の管理業務を円滑に行い、教職員が活用しやすくする。	B	B					
視聴覚教室や準備室等にある備品の整理を行い環境を整える。		B							

自己評価及び学校関係者評価を踏まえた今後の改善策

・職業科のコース編制に向けて、関係機関(県・企業・上級学校等)と連携を図りながら、教育課程や施設設備等計画的に準備を進める。

・入学志願者の減少に対応するために、中学校訪問等、年間を通した戦略的な広報活動を組織的に実施する。

評価項目以外のものに関する意見

山口コミュニティ運営協議会の紅白幕やジャンパーのクリーニング等、地域活動を支援していただき感謝しています。